

追加データ報告

データアップ：2010年11月

(1) 実証の追加掲載（次ページより実証掲載）

- サポートツール名称：おとのある・ないクイズ
区分1：国語 区分2：聞く
学習の領域：音韻認識
困難：ことばの音韻を正しく認識できない
- サポートツール名称：ねじれるおとどれだ？1・2
区分1：国語 区分2：書く
学習の領域：音を文字に変換する
困難：特殊音節を間違いやすい

(2) プリントのダウンロード

- サポートツール名称：特殊音節練習プリント
区分1：国語 区分2：書く
学習の領域：音を文字に変換する
困難：特殊音節を間違いやすい

(3) ソフトのダウンロード

- サポートツール名称：追従性眼球運動トレーニングソフト
区分1：国語 区分2：読む
学習の領域：文章の音読
困難：文字や行をとばしたり、繰り返して読んだりする

サポートツール実証データ

実証研究実施者	村井敏宏	
区分 1	国語	
区分 2	聞く	
領域	音韻認識	
困難	ことばの音韻を正しく認識できない	
サポートツール	おとのある・ないクイズ（わくわくプリント） 読み書きが苦手な子どもへの〈基礎〉トレーニングワーク（明治図書）	
学年	小1	
試用期間	1週間	1ヶ月間 1回/週 10分間
使用場所	通常学級	通級指導教室
使用上の注意、条件	一斉指導	個別指導
使用状況 〈授業の構成等〉	<p>〈通常学級〉*朝の読書タイムに一斉で行った</p> <p>①目標となる音の確認－『かにの「か」の音がつくことばをさがします』</p> <p>②絵が何かを確認－教師が順番に絵の名前を読み上げる</p> <p>③一斉で練習－『かきには「か」がついていますか』→○ 『にんじんには「か」がついていますか』→×</p> <p>④各自で○×をつけていく</p> <p>⑤一斉で確認－赤鉛筆でチェックさせる</p> <p>〈通級指導教室〉</p> <p>①目標となる音の確認－『かにの「か」の音がつくことばをさがします』</p> <p>②子どもに何の絵か確認－違う場合には正しい名前を教師が読み上げる</p> <p>③間違いやすい場合には、教師がゆっくり聞かせ、復唱させる</p>	
〈子どもの様子〉	<p>〈通常学級〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどの子どもは間違いことなくできていた ・絵がたくさんあるので楽しんで取り組んでいた ・間違いやすい子どもには、個別に確認させたり、横についてゆっくりことばを聞かせたりした <p>〈通級指導教室〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文字を書かなくても良いため意欲的に取り組めた ・ことばをゆっくり言いながら、注意深く音を探していた ・自信を持って、「かんたん」に○を付けていた 	
留意事項	・「○のつくことばさがし」など音韻に注意を向けるゲームなどを取り入れると良い	
評価	<p>〈通常学級〉・ことばの音韻に対する意識が高まった</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音韻が苦手な子どもを早い時期に把握することができた <p>〈通級指導教室〉・ことばの音韻に対する意識が高まった</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ことばの音韻に注意を向けることができるようになった 	
サポート・ツールの改善点		



どうだった？ ↓
 😊 かんたん
 😐 ふつう
 😞 むずかしい

				
				
				
				

かんわくプリント
1
 1 おとのある・ないクイズ①
 の「か」がつくことばに ○をつけよう。
 なまえ

サポートツール実証データ

実証研究実施者	村井敏宏	
区分 1	国語	
区分 2	書く	
領域	音を文字に変換する	
困難	特殊音節を間違いやすい	
サポートツール	ねじれるおとどれだ？ 1・2（わくわくプリント） 読み書きが苦手な子どもへの〈基礎〉トレーニングワーク（明治図書）	
学年	小1	
試用期間	2週間	1ヶ月間 1回/週 10分間
使用場所	通常学級	通級指導教室
使用上の注意、条件	一斉指導	個別指導
使用状況 ＜授業の構成等＞	<p>〈通常学級〉＊朝の読書タイムに一斉で行った</p> <p>①ねじれる音の確認－『「きゃ・しゃ・ちゃ」のどれか考えましょう。』（板書で確認）</p> <p>②絵が何かを確認－教師が順番に絵の名前を読み上げる</p> <p>③一問目を練習－『先生が読んでみます。「き」を入れると「きゃべつ」。「し」を入れると「しゃべつ」・・・さあ、どれでしょう？』</p> <p>④各自で残りに「き・し・ち」を記入する。</p> <p>⑤一斉で確認－赤鉛筆でチェックさせる</p> <p>〈通級指導教室〉</p> <p>①ねじれる音の確認－『「きゃ・しゃ・ちゃ」のどれか考えましょう。』</p> <p>②子どもに何の絵か確認－違う場合には正しい名前を教師が読み上げる</p> <p>③間違いやすい場合には、教師が拗音部分をゆっくり聞かせ、復唱させる</p>	
＜子どもの様子＞	<p>〈通常学級〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「き・し・ち」「ゃ・ゅ・ょ」から選んで一文字入れるだけなので意欲的に取り組めた ・間違いやすい子どもがクラスに数名みられた ・間違いやすい子どもには、個別に確認させたり、横についてゆっくりことばを聞かせたりした <p>〈通級指導教室〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「き・し・ち」「ゃ・ゅ・ょ」から選んで一文字入れるだけなので意欲的に取り組めた ・苦手な子どもには、教師が3つの文字を入れて読み、正しいものを聞き取らせた ・苦手な子どもには、「拗音カルタ」を用いて認識を高めた 	
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・次のステップとして「特殊音節練習プリント（村井敏宏作）」を用いると効果的である 	
評価	<p>〈通常学級〉・拗音書字の習得がスムーズにいった</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特殊音節が苦手な子どもを早い時期に把握することができた <p>〈通級指導教室〉・つまずきやすい拗音表記を分かりやすく教えることができた</p> <ul style="list-style-type: none"> ・苦手さを持つ子どもには別教材も用いる必要がある 	
サポート・ツールの改善点		

